

## 論文内容要旨

自閉症スペクトラム障害における社交不安の神経解剖学的相関  
：Voxel-Based Morphometry を用いた予備的研究

昭和学会雑誌 第 81 巻第 3 号 2021 年 6 月掲載予定

内科系精神医学専攻 澤登洋輔

社交不安は自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder, 以下 ASD) の主要な併存症状の一つであるが、その神経解剖学的基盤は未だに十分に研究されていない。本研究では、成人 ASD の社交不安の神経解剖学的相関を神経学的定型群 (Neurotypical Control, 以下 NC) と比較して検討した。対象は、2010 年 9 月から 2012 年 12 月の期間における昭和大学附属烏山病院の外来患者の内、精神障害者の診断と統計マニュアル第 4 版改訂版で ASD と診断された 40 名の男性 (平均年齢 31.1 歳、標準偏差 7.9 歳) と、病院の医療従事者の親族または知人から募集した健常者 43 名の NC 男性 (平均年齢 31.4 歳、標準偏差 7.2 歳) であった。婚姻状況、雇用状況、現在の喫煙習慣、現在の飲酒習慣、精神障害の過去の病歴、および現在使用している場合は現在の薬を含む社会統計学のおよび臨床的特徴を収集し、リーボヴィッツ社交不安尺度日本語版 (Liebowitz Social Anxiety Scale, 以下 LSAS-J)、自閉症スペクトラム指数、ウェクスラー知能検査第 3 版を用いて、それぞれ社交不安の重症度、ASD 症状、知的プロフィールを評価した。全脳 1.5T 磁気共鳴画像法スキャンを実施した。LSAS-J スコアの神経解剖学的相関を調べるために、Voxel-based morphometry 解析を行った。ASD 群と NC 群において、ロジスティック回帰解析の結果、社会的・臨床的尺度が及ぼす影響はなかった。また、両群において、LSAS-J の高不安群 (30<) と低不安群 (30>) の間で、社会行動学的変数や臨床的変数に有意な差は認められなかった。ASD 群では LSAS-J スコアが左上側頭回および右感覚運動野の灰白質密度 (Gray Matter Density, 以下 GMD) とそれぞれ正と負の相関を示した。一方、NC 群では LSAS-J スコアが両側前頭極および左被殻の GMD とそれぞれ正と負の相関を示した。関心領域解析を行った結果、上記 4 領域のうち、左上側頭回以外の右感覚運動野、左前頭極および左被殻における平均 GMD は LSAS-J と群要因の交互作用を認めた。これらの結果から、ASD では元来の前頭葉機能の弱さを側頭葉機能で代償していることが示唆された。本研究により、ASD は、NC と比較して、社交不安の神経解剖学的相関に特徴があり、社交不安の高まりに対する代償メカニズムに違いについての有用な所見が得られたと考えられる。(1047 字)